参考資料

Ⅰ．シンポジウムアンケート

１．交通事故で家族を亡くした子供の支援に関するシンポジウムアンケート結果

交通事故で家族を亡くした子供の支援に関するシンポジウムの参加者 133 名のうち、71 名のアンケートを回収した。

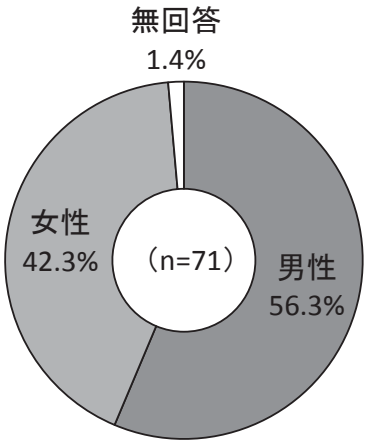
アンケート調査結果は、以下のとおりである。

（１）参加者の属性

① 性別

回答者の性別については、「男性」の回答が 56.3%、「女性」の回答が 42.3%となっている。

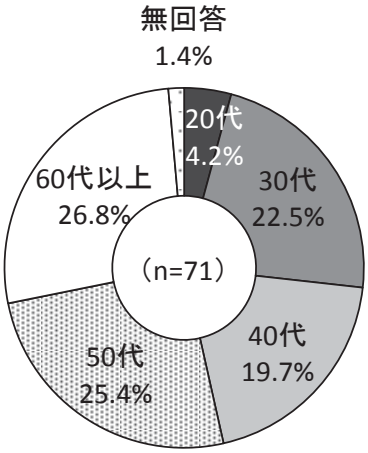
図表１　性別



② 年齢

回答者の年齢については、「60 代以上」（26.8%）が最も多く、次いで「50 代」25.4%、「30 代」22.5%、「40 代」19.7%となっている。

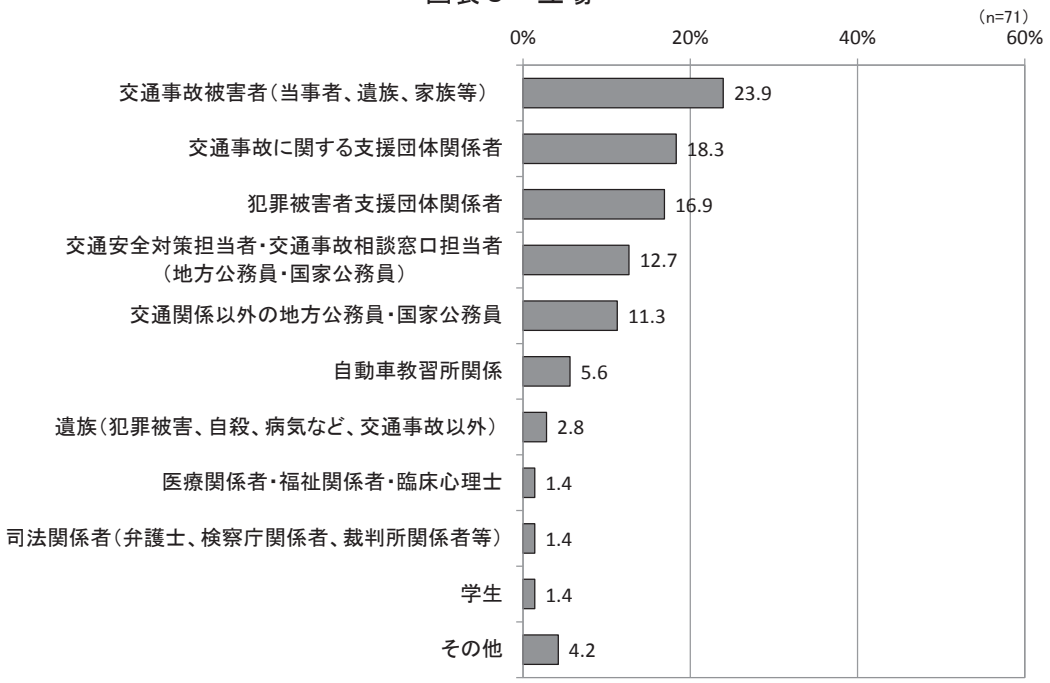
図表２　年齢



③ 立場

参加者の立場については、「交通事故被害者（当事者、遺族、家族等）」が 23.9%と最も多く、「交通事故に関する支援団体関係者」が 18.3%、「犯罪被害者支援団体関係者」が 16.9%、「交通安全対策担当者・交通事故相談窓口担当者」が 12.7%、「交通関係以外の地方公務員・国家公務員」が 11.3%となっている。

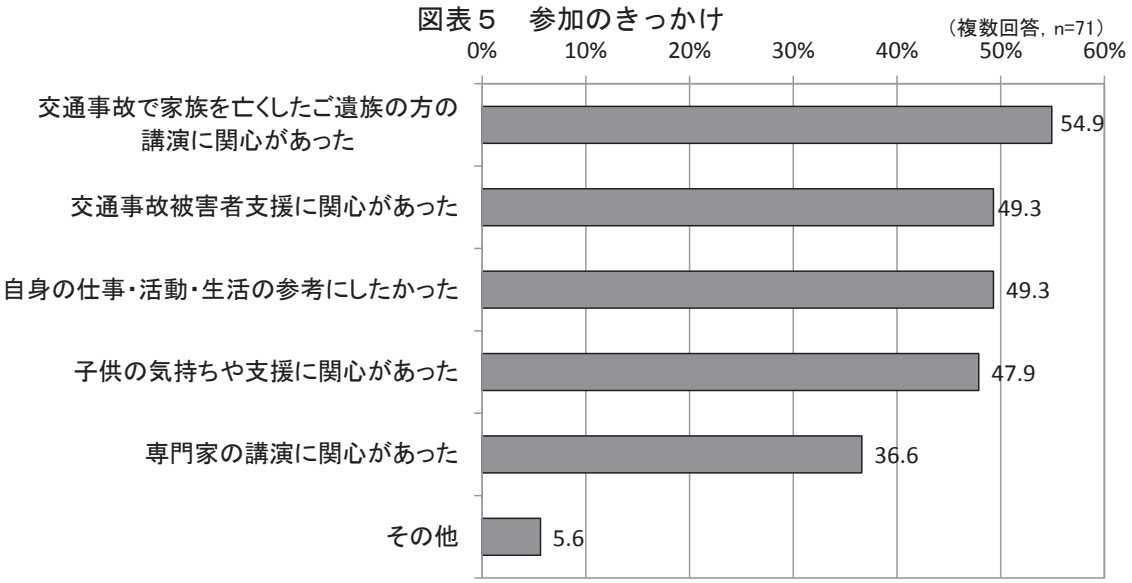
図表３　立場



（２）参加のきっかけ（複数回答）

シンポジウムの参加のきっかけについては、「交通事故で家族を亡くしたご遺族の方の講演に関心があった」54.9%、「交通事故被害者支援に関心があった」49.3%、「自身の仕事・活動・生活の参考にしたかった」49.3%、「子供の気持ちや支援に関心があった」47.9%、「専門家の講演に関心があった」36.6%となっている。

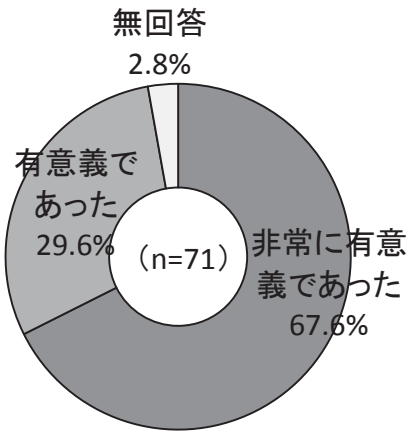
図表５　参加のきっかけ



（３）参加した感想

シンポジウムに参加した感想について質問した結果「非常に有意義であった」が 67.6%、「有意義であった」が 29.6%であった。なお「どちらともいえない」、「あまり有意義ではなかった」、「全く有意義ではなかった」の選択肢も設定していたが、それらの回答はなかった。

図表６　参加した感想

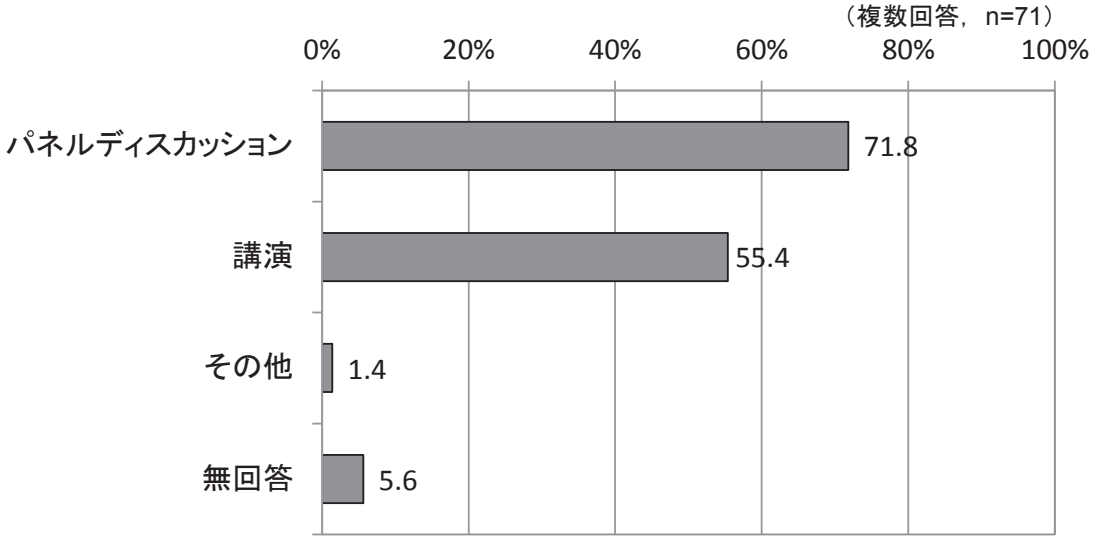


※ アンケート調査票には、参加した感想について「どちらともいえない」、「あまり有意義出なかった」、「全く有意義でなかった」の選択肢も設定していたが、それらの回答はみられなかった。

（４）参考になった内容

シンポジウムにおいて参考になった内容について質問した結果、パネルディスカッションが 71.8%、講演が 55.4%であった。

図表７　参考になった内容



※ 講演は、「突然の家族の死とそのケア」、「家族を亡くした子供の親として」、「家族を亡くした子供の支援」を含む

（５）自由記述の回答

シンポジウムの自由記述に記載されていた主な内容について、掲載する。

① シンポジウムが「非常に有意義」または「有意義」であった理由

・初心運転者教育に取り入れ、参考にします。*（自動車教習所・50 代男性）*

・現在グリーフケアの勉強をしていますが、机上の理論だけでない、生の声を聞くことが出来て大変勉強になりました。 *（学生・40 代女性）*

・交通安全講習などにおける講話の材料にさせて頂きます。この事業・シンポジウムが被害者支援のみならず、交通事故抑止そのものに役立てばと思います。 *（交通安全、交通事故相談担当の公務員・30 代男性）*

・専門的なことを知ることができたのはもちろん、１人１人体験された、様々な感情のあり方を聞くことができ、とても貴重な時間でした。 *（交通事故被害者・30 代男性）*

・当事者の気持ちや葛藤が心に響いた。また、グリーフのプロセスについて感じることができた。 *（交通事故被害者支援団体・30 代男性）*

・長い月日を苦しんでこられた遺族の方が強く伝えていられることに勇気が湧いて来ます。 *（交通事故被害者・30 代男性）*

・交通事故で子供さんを亡くされた遺族の方の生の声に触れ、また子供たちがどのように悩み苦しんでいるかをほんの一部分だとは思いますが、知ることができたことに感謝します。 *（交通安全、交通事故相談担当の公務員・40 代女性）*

・グリーフについて客観的に考える事ができました。現在進行形の子供のケアについて改めて考えを直そうと思います。より多くの方にこのシンポジウムを知って頂き、今後も課題について考えつづけ、より発展していく事を願います。 *（交通事故被害者・40 代女性）*

② 特に印象に残ったこと

・今まで、残されたきょうだいに対する視点がなかったことをあらためて認識させられたこと。 *（犯罪被害者支援団体・50 代女性）*

・グリーフプロセスを知った上で、個人差のある現況をいかにのり切るかが課題だと、痛切に感じました。 *（犯罪被害者支援団体・60 代以上女性）*

・「子供だから」という意識を持たず、尊重すべきこと。子供が話をできる場所（機会）が必要なこと。 *（犯罪被害者支援団体・60 代以上女性）*

・悲嘆には、それぞれ固有の形があることが改めて認識できた。 *（交通関係以外の公務員・30 代男性）*

・遷延性悲嘆障害について印象に残りました。 *（犯罪被害者支援団体・60 代以上女性）*

・大人が思うほど子供は幼くはなく、ちゃんと自分の意思で物事を受け止め、前向きに考えている。それを判らない大人の未熟さが、情けないと思った。 *（交通安全、交通事故相談担当の公務員・50 代男性）*

・遺族の方の実経験から気づかされることが多く、今後の参考になった。子供への支援に関する具体的実践、心すべきことが参考になった。子供へどう寄り添うかというこ

とについて、もっと考えていかなければならないと思った。*（犯罪被害者支援団体・60 代以上女性）*

・『家族の死に丁寧に触れるお手伝いをする』という考え方に興味を持ちました。また、死について説明する必要性を聞き、決して「ふた」をするものではないのだな、と感じました。*（交通安全、交通事故相談担当の公務員・30 代男性）*

・心の深い真実の声を聞かせて頂きまして、「表面的・短絡的に物事・出来事を見ない・捉えない」ということを、深く感じました。ありがとうございました。*（犯罪被害者支援団体・60 代以上女性）*

・子供やきょうだいの気持ちを聴くことができ、我が子との向き合い方を改めて考えさせられた。*（交通事故被害者・30 代男性）*

・事故で家族の亡くした方の話はなかなか聞けなかったが、今日参加したことで、抱えている悩みや思いを少しでも知ることができてよかった。*（交通事故被害者支援団体・30 代男性）*

・井上郁美さんが、遺族でありながらも失敗をお話し下さったことが本当に心に残り、支援者として心に受け止め、二次被害にならぬようにしようと思いました。グリーフと言うサポートセンターがあることを知り、大変力になっていることを頼もしく思います。*（犯罪被害者支援団体 60 代以上女性）*

・パネルディスカッションにおいて、それぞれのパネラーにお話しが聞けてとても良かったです。皆さんそれぞれ想像以上に自分のこと以外にも周りのことも考えて生きてこられたことに感動しました。*（交通事故被害者支援団体・50 代男性）*

・親をなくした親類の子供を思い出して悲しく思う中で、金銭的なもの、年齢に相応したコミュニケーションとアドバイス等、子供が一生懸命生きていることに他人の支援が必要であることをつくづく思う。*（自動車教習所・60 代以上男性）*

・事故遺族・遺児の年齢や時間の経過など、その時々の状況によって、感情の動きや必要な支援に違いが大きいということが分かりました。行政の立場から、支援や応対等の普及・啓発に努めていきたいと思います。*（交通安全、交通事故相談担当の公務員・20 代男性）*

③ 交通事故で家族を亡くした子供の支援に必要なこと

・奨学金等の経済支援、同じような境遇の者同士の交流の場を作ること。教師への周知。*（交通事故以外の遺族・30 代男性）*

・社会全体でいろいろな機会、場を通じてこのテーマを採り上げてゆき、一般市民の関心をさらに高めてゆく必要があると思います。*（交通事故被害者支援団体・60 代以上男性）*

・遺族などの被害にあった側の方の心の声などのパンフレットなどを、もっとたくさんの方に知ってもらうように働きかけること。世間に心のケアなど、もっと今日のことを知ってもらうこと。*（交通事故被害者・30 代女性）*

・いろいろな方が言われていたように、「サポートされる側」の立場としての「子供」でいることではなく、「その子」が生きていけるつながり・場という意味で、「子供同士がつながる」こと、「子供に情報・サポート・その場が届くこと」が大切かと思いました。*（交通事故以外の遺族・30 代女性）*

・パネラーの平尾さんの話にもあったが、「グリーフのプロセスを初めから知っていれば、余計に苦しまなくても済むのでは」という言葉を、形にして伝えるシステムを作る。改めて、繋げる、出会う場の提供を行なっていく。*（交通事故被害者支援団体・30 代男性）*

・まず、無償の経済支援。事故直後からの家族支援の場の設定。警察とのつながり。支援しなければならない家族が、こういう支援の場があることを知らない。私の関係している支援団体にも、何年も前に亡くなられた家族がようやく支援団体を知って連絡されることが増えています。このような家族が少しでも少なくなり、早く支援できることが必要。*（交通安全、交通事故相談担当の公務員・40 代女性）*

・利害関係のない者が、いかに被害に遭われた方の気持ちを理解して支えていくか、考えさせられましたが、まずは思いを聴かせていただくことからでもサポートになるのだと思えました。*（交通事故被害者支援団体・50 代男性）*

・精神的な支援は大変必要だと感じますが、経済的支援はより大切なものと思います。貧困、生活困窮者、今日の数々の事件を想像出来ます。奨学金、育英資金の前にある生活困窮者に国・地方自治体の出番がある。福祉制度としてみることが大切。*（犯罪被害者支援団体・60 代以上男性）*

・パネルディスカッションでも言われていましたが、経済的支援、しかも、森さんが言われていたように、受ける側が施しと思わず受け取れるような支援が必要だと感じました。子供達が自分の生活範囲内で助けを求められる環境、例えばネットであったり、学校であったり、身近なところで情報を入手出来ることが必要だと思いました。 *（学生・40 代女性）*

・お話しにもありましたが、「グリーフ」の社会の理解。学校教育で行ない、全ての人が「グリーフ」について正しい理解を持つことが大切。もし、大切な人を亡くしても、身近な人が大切な人を亡くしても、人にやさしいグリーフケアができるのではないでしょうか。 *（交通事故以外の公務員・30 代男性）*

・子供の気持ちを聴くことが、根本だと思います。自立、自律した日本、世界のために役立つ大人に育つように支援できればいいのに、と感じました。 *（犯罪被害者支援団体・60 代以上女性）*

④ その他要望・意見

・家族を亡くされた方々の生の気持ち、思いを伺うことができ、大変、ありがたかったです。何か周りで出来ることがもっとないか考える機会になりました。ありがとうございました。 *（交通事故被害者支援団体・50 代男性）*

・今日のようなシンポジウムを関東だけでなく、今後も関西圏や全国で行なっていただきたい。 *（交通関係以外の公務員・30 代男性）*

・こういった集会をもっと多く開催され新聞にも大きくのせて欲しい。質疑応答があればよかった。 *（その他・50 代男性）*

・この様なシンポジウムを色々な企業で実施するとよいと思う。 *（自動車教習所・50 代男性）*

・こういったシンポジウムがあまり知られていないのではないかと思う。不幸にして交通事故に遭った方々の支援もさることながら、事故の予防、また法的整備を図ることにつながっていくよう、更なる工夫・活動の必要性を感じた。 *（交通事故被害者・60 代以上男性）*

・森さんの「社会に借りを作っている人だという気がしていた」という旨のお話には、はっとさせられた。確かにその通りだ。支援の難しさ、デリケート・センシティブさを改めて知った。 *（交通関係以外の公務員・30 代男性）*

・今日はお話し聞けて大変勉強に成りました。今日のテーマは子供さん中心のことでしたが、色々なテーマを設定し、また年に一回でなく何度か開催してほしいです。 *（交通事故被害者・60 代以上女性）*

・シンポジウムは勉強になるが、事故に遭った当事者の共有の場となっているので、まだ事故に遭っていない人、これから事故に遭うかもしれない人々にも提案性のあるシンポジウムになるといいのではないかと思った。 *（交通事故被害者・30 代女性）*

・「○○を作るためのシンポジウム」、「何かを決める会」、「○○を作ったよ」というようなネットワークや取組のシンポジウムであってもいい。難しいかもしれないが、次のステップを待つ会で終わるのはもったいない。*（犯罪被害者支援団体・30 代女性）*

・私は現在、県の交通安全対策室で仕事をしていますが、小学校の教員です。井上さんが、学校の教職員に伝えたいと言われる思いが、痛いほど伝わってきました。ぜひ、教職員が学ぶ機会があれば、と強く思いました。 *（交通安全、交通事故相談担当の公務員・40 代女性）*

・パネルディスカッションで森さんが、「今回発表することで 30 年間閉じ込めていた苦しさつらさを整理でき、やっと避けていたことを超えることができた」と話されたこと。つらいこと苦しいことを生きるために湧き出してくるのを抑えてきた。向き合ってなかったことにやっと向き合えた。この過程を越えなければ、心から笑えることはできない。人によってとても時間がかかる。一生かかってもできないかもしれない。わりと短い時間でできる人も中にはいるが、とても長い道程です。 *（犯罪被害者支援団体・60 代以上女性）*

２．シンポジウムアンケート調査票

交通事故で家族を亡くした子供の支援に関するシンポジウム
アンケート

本日は、「交通事故で家族を亡くした子供の支援に関するシンポジウム」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。今後の参考にさせていただきますので、以下のアンケートへのご協力をお願いします。下記設問の該当する番号に〇印を付し、記述欄にご記入ください。

■あなた自身についてお伺いします。

Ｑ１．性別　　①　男性　　②　女性

Ｑ２．年齢　　①　10 代　②　20 代　③　30 代　④　40 代　⑤　50 代　⑥　60 代以上

Ｑ３．お立場　（該当するもの１つ）

①　交通事故被害者（当事者、遺族、家族等）
②　交通事故に関する支援団体関係者
③　犯罪被害者支援団体関係者
④　交通安全対策担当者・交通事故相談窓口担当者　（地方公務員・国家公務員）
⑤　④以外の地方公務員・国家公務員
⑥　遺族（犯罪被害、自殺、病気など、交通事故以外）
⑦　医療関係者・福祉関係者・　臨床心理士
⑧　司法関係者（弁護士、検察庁関係者、裁判所関係者等）
⑨　学生
⑩　自動車教習所関係
⑪その他（　　）

Q4. シンポジウムに参加したきっかけは何ですか?　（複数回答可）

①　専門家の講演に関心があった
②　交通事故で家族を亡くしたご遺族の方の講演に関心があった
③　交通事故被害者支援に関心があった
④　子供の気持ちや支援に関心があった
⑤　自身の仕事・活動・生活の参考にしたかった
⑥　その他
（　　）

■ご感想についてお伺いします。

Ｑ１．シンポジウムに参加していかがでしたか？　（１つだけ〇を付け、理由があればご記入ください）

①　非常に有意義であった　　②　有意義であった　　③　どちらともいえない
④　有意義ではなかった

＜理由＞
（　　）

裏面もご記入ください

Ｑ２．本日参考になった内容は、どれですか？　　（複数回答可）

① 講演「突然の家族の死とそのケア」（岩切昌宏氏）
② 講演「家族を亡くした子供の親として」（井上郁美氏）
③ 講演「家族を亡くした子供の支援」（西田正弘氏）
④ パネルディスカッション「子供の頃に交通事故で家族を亡くすということ」
⑤　その他
（
）

Ｑ３．講演やシンポジウムを聴いて、特に印象に残ったことはどのようなことですか？

（　　）

Ｑ４．今後、交通事故で家族を亡くした子供を支援していくためには、どのようなことが
必要と思われますか？

（　　）

■その他

その他、ご意見・ご要望・お気づきの点がございましたら、お聞かせください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

Ⅱ．自助グループ運営・連絡会議アンケート

１．自助グループ運営・連絡会議 アンケート結果

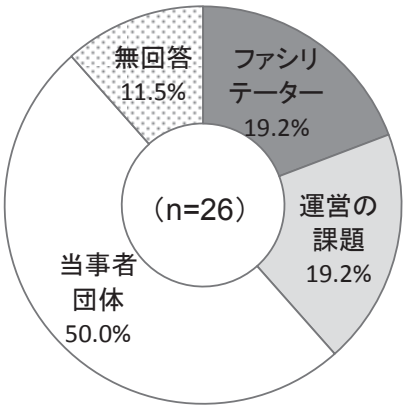
自助グループ運営・連絡会議参加者 30 名のうち、26 名のアンケートを回収した。

アンケート調査結果は、以下のとおりである。

（１）参加者の属性

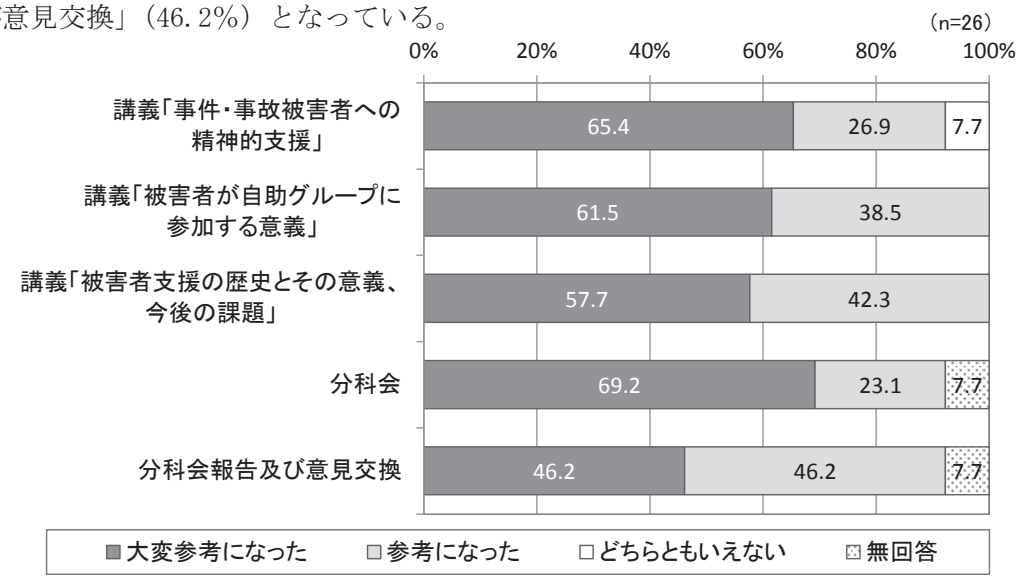
① 参加した分科会別回答者の割合

参加した分科会別に回答者を見てみると、「分科会Ａ：ファシリテーターについて」が 19.2%、「分科会Ｂ：自助グループ運営の課題」が 19.2%、「分科会Ｃ：自助グループの定義と意義（当事者団体）」が 50.0%、「無回答」が 11.5%となっている。



（２）会議全体の評価

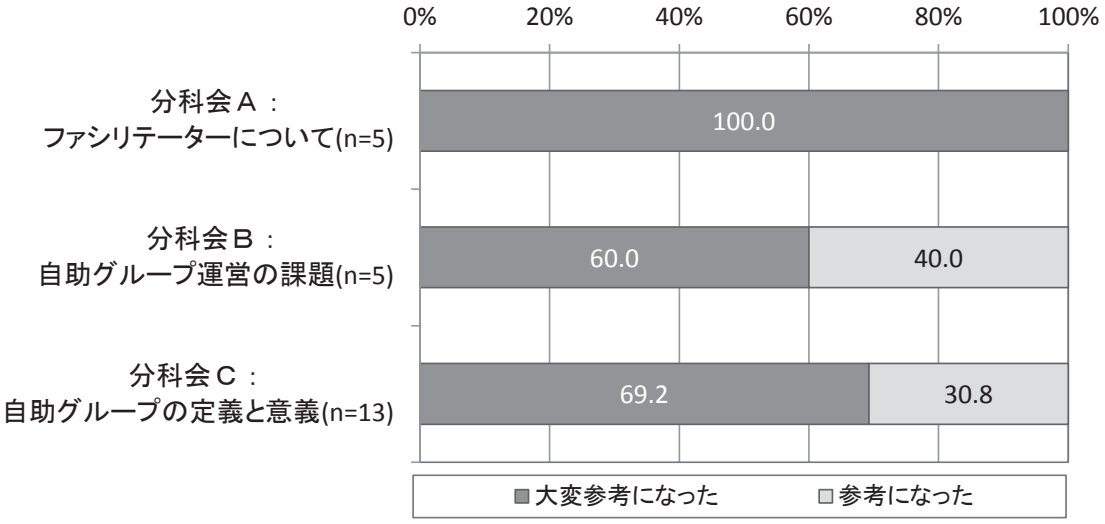
それぞれの会議の評価については、「大変参考になった」という回答が、「事件・事故被害者への精神的支援」（65.4%）、「被害者が自助グループに参加する意義」（61.5%）、「被害者支援の歴史とその意義、今後の課題」（57.7%）、「分科会」（69.2%）、「分科会報告及び意見交換」（46.2%）となっている。



※ アンケート調査票には、「あまり参考にならなかった」、「全く参考にならなかった」の選択肢も設定していたが、それらの回答はみられなかった。

（３）分科会の評価

参加した分科会の評価について質問したところ、「分科会Ａ（ファシリテーターについて）」は「大変参考になった」とする回答が 100%、「分科会Ｂ（自助グループ運営の課題）」は、「大変参考になった」（60.0%）、「参考になった」（40%）となっており、「分科会Ｃ（自助グループの定義と意義）」については、「大変参考になった」（69.2%）、「参考になった」（30.8%）となっている。



※ アンケート調査票には、「どちらともいえない」、「あまり参考にならなかった」、「全く参考にならなかった」の選択肢も設定していたが、それらの回答はみられなかった。

（４）自由記述の回答

自助グループ運営・連絡会議のアンケートにおける、自由記述に記載されていた主な内容について、掲載する。

① 講義「事件・事故被害者への精神的支援」

・医師としての見方がわかりやすかった。

・気持ちを理解してもらえるとても良い会議であった。

・精神科医の考え方や支援が学べた。

・精神科の先生のお話は大変参考になりました。支援センター、精神保健福祉センター弁護士、様々な関係機関に対応していただける体制を取っていただきたい。

・わかりやすい講義であり、被害者への精神的支援についての全般が良く理解できた。被害者を取り巻く苦悩、また回復の道について深く考えることができた。

・自分でも焦点の絞り切れなかったものが、辻本先生の最後の一言で見えたように思い

ます。今の自分が行なっていることで良いと感じた反面、フラッシュバックも思い起こしてしまい、まだ傷は癒えていないと感じています。

・医師と思わせない話し方に自然と耳を傾けることができました。支援者・被害者だけでなく、広く一般の方にも聞いていただきたい内容でありました。

・辻本先生のお人柄による、引き込まれるお話でした。被害者支援の心得についての復習となりました。

② 講義「被害者が自助グループに参加する意義」

・3 人のご遺族の各々の立場からのお話がとても参考になりました。

・改めて被害者支援センターの現状と活動の意義が理解できた。

・支援センターの在り方をもっと良いものにしていきたいと思います。

・被害者として全く同感で、自分にはない動きに対して感心します。

・被害者にとって、自助グループがどんな役割を果たすか、果たすべきか理解できた。また自助グループ内の原則は運営していくうえで重要であり再確認した。

・自助グループに参加してくださる方々が、「この会に参加してよかった」、「次回も参加してみよう」、「この人がいるから参加してみよう」と思ってもらえるような会にしていこうと思います。

・参加者が減っていくのは支援がちゃんとなされていないから、というお言葉は厳しいですが、その通りなのだと思います。今後隅々まで心配りをし、改めてきちんと支援をしていくように気を引き締めて当たりたいと思った次第です。

・支援センターの在り方をもっと良いものにしていきたいと思います。中でも、自助グループの存在を明確にする必要があると思いました。自助グループへの参加者が少ないのは、支援センターの力不足という言葉が突き刺さりました。

・それぞれの被害者の自助グループに対する本音が聞けて良かった。事件後の思いや回復への道、自助グループへの思いなど詳しく聞くことができ、自分なりにいろいろと考えることができた。

③ 講義「被害者支援の歴史とその意義、今後の課題」

・改めて聞く被害者支援の歴史。深いなと感じました。

・現在に至るまでの被害者支援の歴史がわかり、支援の大切さを実感できた。

・大久保さんがどれだけ大変な思いをされてここまでの体制を作ってきたかということが良く分かりました。これからも継続していかないといけません。

・大久保さんの犯罪被害者支援の歴史は映像とともにわかりやすく、一段と理解することができる礎になりました。

・これまでの歴史を知り、新たな気づきをおぼえました。また今後の活動の役に立つと思えました。

・支援を必要とする人に、支援センターがどのように手を差し伸べたら手を出していただけるか、考えていくことが必要だと思いました。

・被害者支援がまだまだ理解されていない時代から、今日に至るまでの移り変わりを詳しく聞くことができ、支援に携わる者としていろいろなことを深く考えさせられた。また、犯罪被害者等基本法についての話を聞き、あらためて基本法を読み直す機会を得た。被害者関連の法律については、これからも注視していきたい。

④ 分科会

・具体的なコメントを講師の方からいただけたのが良かった。細かいことまでアドバイスをいただけ、また具体的だったのでとてもわかりやすかった。

・このような機会がなく、とても勉強になった。実際に難しい場面への対応をロールプレイで学べたのでわかりやすかった。他のセンターの話を聞くことができ、参考になった。

・ファシリテーターは会をコントロールするのではなく、わき役として参加する。「まとめない」、「引っ張らない」、「判断しない」ことに気を付けてファシリテーターの役割を果たせるよう努力していこうと思います。参加者への目配り、心配り、ファシリテーター自身の内を見つめる、大変な役割と思いました。

・自分の意見も言えたし、当センターの課題も解消されました。

・遺族が主役ということの確認。

・グループの規模はそれぞれ違っても、抱えている問題は似ていると感じた。ヒントもあったのですが、エネルギーをいただけた分科会でした。辻本先生もお話されていましたが、誠実さに着目して支援の方を探していきたいです。

・他の県の様子がよくわかり、今後の自助グループの運営に役立てたいと思います。持ち帰り、他の支援員と共有します。

・自分たちの向かうべき方向がわからなかったが、少しずつではあるが見えてきたよう

に思う。取組としてはいろんなタイプはあるが、「生きる」、「命」などを大切にすることを伝えるようになればと思った。各グループの取組で自分の知らない組織があり、協力してもらえるところの多さに驚いている。

⑤ 分科会報告及び意見交換

・自分が参加していない分科会の内容について知ることができた。当事者の方の自助グループの気持ちを聞けて良かった。

・自助グループに対するセンターの役割の一つとして、マンネリ化しないよう常に自助グループの在り方を見つめなおしていく。自助グループに参加させていただけるような心づかい。案内状にその人だけに伝えるメッセージを入れる（良いアドバイスをいただきました)。センターの行事や研修会に自助グループのメンバーの方の参加の呼びかけを積極的に参加してくださるようにしていこうと思います。

・お互いの分科会で話し合ったことを伝え合えてよかった。人数が少ない、固定化している等の現状があるけれど、工夫を出し合うことで解決していけそうです。

・分科会 A のファシリテーターのロールプレイは、経験になってよかったです。当事者団体の自助グループの存在をもっと知らなければ、掘り起こさなければいけないと思います。

・各々の発言時間が短かった。話したいことがいっぱいある。

・立場が違うこと、互いの問題が違うことに驚いてしまう。やはりお互いのことを考えることが大切だと思います。

・寄り添い続ける大切さが理解できた。

・分科会それぞれで話をできたと思います。後はその話を持ち帰り、いかに行動に移せるかです。

２．自助グループ運営・連絡会議 アンケート調査票

「平成 26 年度 自助グループ運営・連絡会議」アンケート

今後の事業の参考にいたしますので、本会議に関するアンケートにご協力ください。なお、お帰りの際にご提出くださいますよう、お願いいたします。

問１．今回の会議の評価について、それぞれ１つ選んで数字に〇を付けてください。また、そうお感じになった理由がもしあれば、ご記入ください。

【１日目】

（１）講義「事件・事故被害者への精神的支援」

① 大変参考になった　② 参考になった　③ どちらともいえない
④ あまり参考にならなかった　⑤ 全く参考にならなかった

⇒上記の理由

（２）講義「被害者が自助グループに参加する意義」

① 大変参考になった　② 参考になった　③ どちらともいえない
④ あまり参考にならなかった　⑤ 全く参考にならなかった

⇒上記の理由

【２日目】

（３）講義「被害者支援の歴史とその意義、今後の課題」

① 大変参考になった　② 参考になった　③ どちらともいえない
④ あまり参考にならなかった　⑤ 全く参考にならなかった

⇒上記の理由

（4）分科会

参加した分科会名（あてはまるもの１つに○をつけてください）

①分科会Ａ（ファシリテーター）②分科会Ｂ（運営の課題）③分科会Ｃ（当事者団体）

評価

① 大変参考になった　② 参考になった　③ どちらともいえない
④ あまり参考にならなかった　⑤ 全く参考にならなかった

⇒上記の理由

（5）分科会報告及び意見交換

① 大変参考になった　② 参考になった　③ どちらともいえない
④ あまり参考にならなかった　⑤ 全く参考にならなかった

⇒上記の理由

問２．その他、今回の会議に参加したご感想等がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました